

# あいち 国際プラザ



2023.11 No.158

**AIA** AICHI INTERNATIONAL ASSOCIATION

公益財団法人 愛知県国際交流協会  
ニュースレター



表紙の一枚

日本赤十字社 国際救援の様子

■ 写真の内容については2～3ページの特集「日本赤十字社の国際救援活動 ～人間のいのちと健康、尊厳を守る～」で紹介しています。

## Contents

**特集** 日本赤十字社の国際救援活動 ～人間のいのちと健康、尊厳を守る～……………P.2～3

- AIA だより 協会の主催・共催事業などを掲載しています…………… P.4～6  
ワールド・コラボ・フェスタ 2023 を開催しました  
「通訳者と支援者のためのコミュニティ通訳講座」初級第1回を開催しました  
留学生インターンシップ報告
- 2023年度「外国人県民による多文化共生スピーチコンテスト」が開催されました…………… P.6
- Focus on！…………… P.7  
国際交流ステーション スリーエス  
世界の街かどレポート 「言語は思いのサンドウック」
- CIR ライアンのでくてく日記 他…………… P.8

当協会では賛助会員を募集しています。詳細は [愛知県国際交流協会 賛助会員](https://www2.aia.pref.aichi.jp/somu/j/send/boshu.html) で **検索**  
<https://www2.aia.pref.aichi.jp/somu/j/send/boshu.html>

## 日本赤十字社の国際救援活動 ～人間のいのちと健康、尊厳を守る～

赤十字って聞いたことはあるけど実際はどんな組織でどんな活動をしているの？と気になったことはありませんか。今号ではそんな日本赤十字社の国際救援活動についてご紹介します。



ハートラちゃんから質問!



### 1. 赤十字ってどんな組織？

赤十字は「人間のいのちと健康、尊厳を守る」をモットーに世界中で、戦争・紛争犠牲者の救援をはじめ、災害被災者の救援、医療・保健・社会福祉事業などを行っています。

武力紛争時の犠牲者の保護・救援を主に展開するICRC、自然災害時国際活動の調整等を行うIFRC、そして世界191カ国に赤十字、赤新月社\*が存在し活動を行っています。

\*赤新月は、主にイスラム教国で使われるマークで赤十字と同様に取り扱われています。



### 2. 日本赤十字社はどんな国際活動をしているの？

#### 緊急救援

大規模災害などの緊急事態の際には、いつでも出動可能な専門家と、医療や給水衛生活動がすぐに展開できる資機材をセットにした「ERU」を結成します。被災国赤十字・赤新月社の救援活動をサポートする形で、診療所等を設置しての基本的な医療、母子保健、予防接種等を行います。日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院（日赤名古屋第二病院）は、日赤が2001年インド地震へ初めてERUを出動させた時から、2010年ハイチ大地震救援や2015年ネパール地震救援等に合計13カ国、延べ87人を派遣しています。



ERU：Emergency Response Unit 緊急対応ユニットとは？～

緊急事態・大規模災害発生に備え、いつでも出動可能な専門家と、すぐに医療や給水衛生活動などが開始できる資機材をセットにしたユニットです。



#### 紛争地での医療支援活動

赤十字の誕生以来、その活動の中心となってきたのは紛争犠牲者の保護と支援です。紛争が続いている国や地域で各国赤十字・赤新月社などと協力しながら、紛争によって影響を受けた人々が必要な医療を受けられるように支援を行っています。日赤名古屋第二病院は、アフガニスタンの地域病院支援、南スーダンやパキスタン北部の紛争犠牲者支援、中東地域における保健医療支援等に職員を派遣してきました。

#### 開発協力・復興支援

いつかは人道支援ニーズそのものがなくなる日がくるように。私たち赤十字は、緊急救援・紛争地支援のみならず、長期的視野に立った「開発協力」「復興支援」にも取り組んでいます。赤十字の活動は、コミュニティー（地域社会）のニーズや脆弱性、そして強みを理解し、そこに暮らす人々を中心に据えてレジリエンス（回復力）を強化することを目指すものです。日赤名古屋第二病院は、ウガンダ母子保健医療支援やフィリピン保健医療支援等に職員を派遣してきました。



#### 難民支援

難民支援として病院や診療所で行う医療活動、水・衛生環境の改善や気候変動で高まる自然災害への防災能力を強化する開発協力、災害後の復興フェーズにおける公衆衛生分野での支援などがあります。現地のスタッフやボランティアと協働しながら、人びとのいのちと健康、尊厳を守り、地域コミュニティのレジリエンスを高める様々な活動を行なっています。日赤名古屋第二病院は、タンザニア赤十字社難民支援やバングラデシュ南部避難民保健医療支援、パレスチナ赤新月社医療支援等に職員を派遣してきました。

## パレスチナ・ガザ地区アルクツズ病院支援

パレスチナの人々は紛争後 75 年以上にわたり、避難した先で制限された生活を余儀なくされています。

イスラエルとパレスチナの緊張の高まりから重症患者をガザ域外の高次病院へ搬送することが日々困難になり、心臓手術を含め高度医療をガザ地区内で完結させる必要が生じています。移動が制限されているのは医療者も同じで、日々進歩する医療技術を学ぶ機会を得られない状況です。日赤は 2019 年 12 月にパレスチナ・ガザ地区のアルクツズ病院で活



© 日本赤十字社

動を開始しました。救急医療・集中医療の質の向上を目指し、現地の医師、看護師が協議しながら、彼ら自身で考える、彼らのための看護プロトコール作りを支援しています。

COVID-19 感染拡大による要員派遣の中断を乗り越え、支援を継続して行っています。現在は NICU における看護を含めた医療者教育にも取り組んでいます。アルクツズ病院の医療の質の向上を通じて、ガザの人々の健康に貢献していきます。



© 日本赤十字社

## ウクライナ人道危機救援

2022 年 2 月 24 日、ウクライナにおける武力紛争が激化し戦闘は長期化しています。紛争地から多くの避難民が故郷を追われ、ウクライナ西部または周辺国への避難を強いられています。さらに、多くの負傷者が通称「病院列車」により西部へ搬送され、医療ニーズが高まっています。

日赤はウクライナ各地、周辺国へ多くの人材を派遣しており、巡回診療支援、厳冬期対策支援、レントゲン装置寄贈など必要とされる支援活動を続けています。

人々の命を守るための支援とともに、傷ついた人々が自分の回復力（レジリエンス）を高め、再び日常を取り戻していく支援も重要です。2022 年 8 月、日赤はウクライナ西部リヴィウにあるリハビリテーション病院支援を決定し、より多くの方を受け入れられるための病院増設、リハビリ資機材寄贈、リハビリスタッフ間での技術交流を進めています。

リハビリ病院で出会った患者の 1 人は母国を守るため志願して兵士となり、頭部への大きな怪我を負いました。一命は取り留めましたが、左半身に重度の麻痺が残っています。彼は懸命にリハビリに励みながら、「今起きていることはとてもつらいことだが、良くなってまた生活に戻りたい」と話してくれました。

苦しい状況の中でも前を向き、自分らしい日常を取り戻そうとしている多くの人びとに今私たちが出来る事を考えます。



© 日本赤十字社



© 日本赤十字社

「ワールド・コラボ・フェスタ 2023」を開催しました。



▲オープニングでの愛知商業高校書道部による作品

今年のワールド・コラボ・フェスタは記念すべき20回目!...ということで、多文化的背景を持つタレントのヴィトルさんを公式アンバサダーに迎え、さわやかな秋晴れのなか気持ちよくスタートを切りました。

例年と同じく名古屋栄のオアシス21を会場に、10月14日(土)、15日(日)の2日間で、約



▲公式アンバサダーのヴィトル氏によるトークショーの様子

5万6千人もの皆様にご来場いただきました。オープニングでは、20回目を記念して、愛知商業高校書道部のみなさんに、華やかで力強いパフォーマンスにより、思いのこもったメッセージを書いていただきました。

ワールドステージでは、国際色豊かな伝統舞踊、軽快な音楽に合わせてのパフォーマンスや、民族楽器を使った演奏など、22団体にご出演いただきました。コラボ広場のブースでは、両日で51団体にご出展いただき、展示、ワークショップや物品販売などを通して日ごろの国際交流・国際協力・多文化共生・SDGsに関わる活動等をわかりやすく楽しく紹介していただきました。

今回のフェスタは、第1回から参加していただいている団体から初めて参加の団体まで様々でしたが、出演者の熱気あふれるステージパフォーマンス、ブース出展者と来場者との活気あふれるやり取りなど、賑わいのあるイベントとなりました。

### 【AIAのだしもの】

わたしたちAIAは、毎年、特定の国に焦点を当て、その国の文化や我が国との交流関係などを紹介しています。今回は建国100周年を迎えたトルコ共和国を取り上げ、ステージとブース展示を行いました。

#### ◆ステージ「見て、聴いて、感じて、オリエンタルなトルコの世界」

ステージでは、京都大学民族舞踊研究会のOB、OGのみなさんに、ダンスを披露していただきました。メンバー全員がトルコの民族衣装を着て、オリエンタルな音源やトルコの弦楽器「カラデニズ ケメンチェ」と大きな太鼓「ダヴル」の生演奏に合わせて迫力あふれる舞踊を舞う姿に、観客も魅了されていました。アジアとヨーロッパの中間にあるトルコには、様々な文化の中継地点として、豊かな文化が築かれています。



▲京都大学民族舞踊研究会のOB、OGメンバー



▲ステージの下で、観客参加型でダンスを楽しみました。

そのため、地域ごとに多種多様なダンスが踊られており、今回のイベントでも短剣を持つ勇ましい男性のダンスや、軽やかなステップの女性のダンスなど、いろいろな踊りを見ることができました。ステージの最後には、参加型としてステージの下で観客のみなさんと輪になって「トラブゾン」というダンスを踊りました。簡単なステップを教えてもらった後、つないだ手を上にあげ、輪になって踊り参加者のみなさんは、知らない者同士が初めてのステップに笑いながら、楽しくトルコを感じていたようでした。

### ◆ブース「メルハバ（こんにちは） トルコへようこそ」

ブースでは、トルコ共和国を紹介したパネル展示、銅製ペンダントを作るワークショップ、「ナザール・ボンジュウ」を数えるゲームとボードゲームのマンカラを行いました。

今回、在名古屋トルコ共和国総領事館にご協力をいただき、民族衣装や写真パネルなどをお借りして、展示しました。ブース展示をご覧いただいた方々からは、「行ってみたいくなった」「行ったことがあるから懐かしい」などのお声をたくさんいただきました。トルコのお守り「ナザール・ボンジュウ」を数えるゲームに参加した方には、もちろん「ナザール・ボンジュウ」をプレゼントしました。

ワークショップでは、島根県松江市でトルコ料理店「やかもずキッチン」を営み、トルコ伝統手芸作家でもある阪本理恵子さんを講師にお招きし、トルコの伝統手芸「オヤ」やトルコ絨毯の実物を見せながら、ご自身の経験を基にトルコの文化や風習についてお話ししていただきました。参加者も手芸作品の細かいレース編みや色鮮やかな模様に興味津々の様子でした。ワークショップでは、トルコ製の銅パーツとトンボ玉を使ったペンダント作りを体験でき、参加者が色や形にこだわって選び、個性豊かなペンダントを真剣に作っているのが印象的でした。

ボードゲームのマンカラは、アフリカをはじめ、ヨーロッパ、東南アジア、カリブ海諸国など世界中で遊ばれている豆まきを模したゲームで、世界最古のゲームの一つと言われています。子どもから大人まで楽しめ、最近では、放課後児童クラブなどでも遊ばれているようです。親子で遊びに来ていただいた方や、何回も参加して下さった方もいて、多くの方に参加していただき大好評でした！

私たちのステージやブースを見てくださった皆様が、トルコのことを身近に感じていただけたら幸いです。

## 「通訳者と支援者のためのコミュニティ通訳講座」初級第1回を開催しました ▶

9月9日（土）に外国人ヘルプライン東海との共催で「通訳者と支援者のためのコミュニティ通訳講座」初級第1回を開催しました。以前、（公財）兵庫県国際交流協会の外国人県民インフォメーションセンターでスペイン語相談員をされていた村松紀子氏を講師に迎え、「コミュニティ通訳の基礎」についてご講演いただきました。コミュニティ通訳と他の通訳ではどのような違いがあるのか、どのような資質がコミュニティ通訳者に求められるのかなど、コミュニティ通訳として活動する上で基本となる点について、経験談も交えながら大変勉強になるお話を聞かせていただきました。講演での伝言ゲームでは、「聞いた通りに正しく伝えることの難しさ」を参加者が実際に体験するなど、楽しみながら学べる機会となりました。

講演後のグループワークでは、外国人ヘルプライン東海の代表である後藤美樹氏の進行の下、「コミュニティ通訳とは何か。」「なぜ通訳の時にメモを取る必要があるか。」の2点について、グループに分かれて話し合いました。通訳をしている人、通訳を利用している人といった立場の異なる様々な参加者が一堂に会してのグループワークはとても盛り上がり、日頃、参加者の皆さんが通訳をする際に感じていることの共有や通訳をする側、される側の立場から、どのような対応をすればよりスムーズに通訳ができるのかといった質問など、様々な話題が飛び交っていました。

コミュニティ通訳は外国人住民の生活を支えていく上で必要不可欠な存在です。一人で対応することが多いコミュニティ通訳だからこそ、通訳者同士がつながり、お互いに支え合いながら通訳活動を行うことが重要であると学びましたが、この講座が通訳者や関係者がつながる場として少しでも役立てていただければ幸いです。皆さま、お忙しい中研修会にご参加いただき、ありがとうございました。

本講座の初級第2回は「DV相談」をテーマに12月12日（火）に開催予定です。第1回の参加者の方ももちろん、DV相談について関心のある方はぜひ、第2回講座にもご参加ください。



▲ワークショップの様子



▲マンカラを楽しむ参加者



▲講師の村松氏



▲グループワークの様子

## 留学生インターンシップ報告

カン・ジェヨン (韓国)



私は、日本で就職するか帰国するかを迷っていたため、このインターンシップはとてもいいきっかけになるだろうと考え、応募しました。

インターンシップは5日間のスケジュールで行われ、職場体験としてイベント運営、文書作成、雑務等の各事業の事務補助をしました。

日本でのインターンシップは初めてだったので、最初は、適応が遅い私がちゃんと適応できるかななどの悩みで、とても緊張していました。しかし、AIAの職員の皆さんが優しく話しかけてくれたおかげで緊張はすぐに解けました。

5日間の事務で感じたことは、まだ漢字を読むのが苦手なことと、ビジネスマナーに慣れていないという2つの点でした。インターンシップの中で、説明会の出席確認の補助をしましたが、その時出席者の名前を探せないことが多くありました。日本で就職するようになったら、名前を読むことがたくさんあると思いますが、その時のためにもよく接する名前は全部読めるようにならないといけないと思いました。また、大学でビジネスマナーについて学びましたが、実際に使った経験がないため、自己紹介はどうすればいいのか、挨拶や話の終わり方などをどうすればいいのか迷いました。これを解決するためにもBJT(ビジネス日本語能力テスト)の試験を受ける必要があると思いました。

また、今回のインターンシップで、日本語能力が未熟なためだったかもしれませんが、私が伝えたい言葉とは違う意味に理解されることが何回かありました。そのため、仕事をする時には自分の言いたいことをはっきり伝えることができるコミュニケーション力が重要だと気付きました。

今後も勉学に勤しみ、インターンシップで気づくことができた私の短所を補っていつて日本での就職にも挑戦してみたいと思いました。



▲会議で発言するカン氏(写真右)

## 2023年度「外国人県民による多文化共生日本語スピーチコンテスト」が開催されました!

愛知県では、外国人県民が自分の思いや考えを日本語で伝えようとする意識の高揚を図るとともに、多文化共生に対する県民の理解を促進するため、2015年度から、「多文化共生日本語スピーチコンテスト」を開催しており、8月19日(土)、今年度のコンテストの最終審査を実施し入賞者を決定しました。

応募資格は、愛知県に在学、在勤又は在住する小学生(相当年齢を含む)以上の母語が日本語以外の方です。今年度は、小学生の部27名、中学生・高校生の部20名、一般の部21名、計68名の応募があり、小学生の部8名、中学生・高校生の部6名、一般の部6名の計20名が一次審査を通過し、20名の内18名が最終審査である本選に出場し、自分を支えてくれた人たちに恩返しをしたいという将来の夢や、自分らしく生きることの大切さなどを流暢な日本語でスピーチしました。

審査の結果、小学生の部では、名古屋市立本地丘小学校6年 クンワル シザルさんが、中学生・高校生の部では、幸田町立南部中学校3年 アイコ アウディ リビアさんが、一般の部では、星城大学経営学部経営学科2年サパコタ シルさんが最優秀賞を受賞し、大村秀章愛知県知事より表彰を受けました。

出場者からは、「国を越えた人たちと意見を伝え合えて、日本で生活していくうえで自信がついた。」「みんなのスピーチを聞いて、勇気もらった、また来年も挑戦したい。」などの声が聞かれました。

このスピーチコンテストでの経験を大切にしてい、今後出場者のみなさんが、それぞれの学校や職場において、大いに活躍されることを心から願っています。



## Focus on!

## 国際交流ステーション

市町村や市町国際交流協会、NGO/NPOなどの活動紹介や最新ニュースをお届けするコーナーです。

## スリーエス (日本語学習支援基金 日本語教室学習支援事業認定団体)

スリーエスの始まりは2010年11月に遡ります。外国につながる子どもが増え、先生が指導に困っているという声を聞き、主婦3人で授業についていけない児童・生徒を授業時間中に別室に呼び、日本語で個別指導する形でサポートする「取り出し授業」を始めたのです。その後は依頼を受ける学校数も徐々に増え、そのたびに周りに声をかけてボランティアを探すことは大変でしたが、今では50人を超す大所帯になっています。

また、最初は「取り出し授業」だけでしたが、家と学校の行き帰りだけになりがちな子どもたちの居場所を作ってあげること、家に帰っても日本語が分からない親御さんには宿題を手伝ってもらえないことを考え、各地区にある市民館を夕方から教室として開放する「放課後教室」を始めました。刈谷市は南北に長い町なので、子どもたちが通いやすいように年々各地域の市民館の数を増やし、現在5箇所週2回ずつ活動しています。中には市外から熱心に通ってくる子どももいます。



▲小垣江市民館



▲お楽しみ会

コロナ禍前はひとつの会場に子どもたちが全員集まり、「お楽しみ会」や、夏休みに市内の会社とコラボして「工作教室」を開催していましたが、現在は各教室で「誕生日会」や「お楽しみ会」をしています。教室では母語が飛び交い、元気な姿を見ることができます。

ここで学んだことが、将来何らかの形で彼らの力になることを信じて、今後も活動を続けたいと考えています。

## スリーエス

住所：刈谷市荒井町 2-7-20

Tel・Fax：0566-24-0575

E-mail：h\_kiku@hotmail.com

URL：https://www.facebook.com/sss.kariya

## Focus on!

## 世界の街かどレポート

世界各地で活躍する方々に現地の活動や交流の様子をレポートしていただくコーナーです。

## 言語は思いのサンドウク キルギス (JICA 海外協力隊 伊藤 友里)

「君は何か国語話せる？ 日本の第二言語は英語か？」

キルギスでは、母語がキルギス語、公用語がロシア語である。しかし、首都ビシュケクにおいては、聞こえてくる会話の多くがロシア語である。キルギス語を話す人でも、おそらく本人ですら気づかぬうちに、自然とロシア語が混ざる。高等教育や医療現場ではロシア語が使われている現状から、キルギスの人々にとって、二つの言語は切り離せないものになっている。そして、二か国語をすらすらと操る彼らから冒頭の質問をされるのだ。

数年前までは、都会の若者がキルギス語を話すことを恥ずかしがる風潮があったと聞く。しかし昨今の国際情勢により、キルギス人としてロシア語ではなくキルギス語を話すべきだ、と考えが変わってきたようである。年長者がロシア語を話す若者に厳しく指導する姿も見られる。公務員や官僚の雇用条件にキルギス語を話すことが盛り込まれたと、最近ニュースにもなった。

「日本語と英語と、少しだけキルギス語が話せます。日本では、日本語しか使いません」

そう伝えると、キルギスの人々は、とても嬉しそうにする。日本人なのにキルギス語を話すのか、どうやって勉強したんだ、キルギスは好きか、と一気に質問される。私のつたないキルギス語を聞いて、私がキルギス語を話すことを喜んでくれるのである。彼らと話し、彼らの言葉を知れば知るほど、キルギスの人々が大切にしてきた人生観、宗教観、自然観が見えてくる。それらは決して異国の言葉に訳せるものではない。旧ソ連の言語的・文化的な支配を受けながらも、失われることなく引き継がれてきた、先人たちの大いなる遺産と言える。私がキルギス語を話すことで、その継承に少しでも寄与できれば、幸甚の至りである。

(※サンドウク=キルギスの嫁入り道具箱。キルギスに伝わることわざ)



▲移動式住居(ボズウイ)の中での宴席の様子



▲伝統文様(オイモ)の刺繍。それぞれの刺繍に意味がある



# CIRライアンのてくてく日記

※ CIRとは、「国際交流員」(Coordinator for International Relations)の略称です。

こんにちはみなさん、おそらく皆さんは知っているかもしれませんが、10月31日はハロウィンでした。ハロウィンを思い浮かべると、かぼちゃや魔女、お菓子などを連想するかもしれませんが、実はハロウィンは古代アイルランドに起源を持つことをご存知でしょうか？

それは、キリスト教以前のアイルランドで行われた祭り、「サウイン」から始まりました。この祭りは収穫の終わりりと冬の始まりを象徴し、人々はこの時期、霊界と物質界の障壁が薄いと信じていました。そのため、亡くなった者の魂が短期間だけ物質界に戻ってくることができると考えられていました。家族は一堂に会し、祖先の魂を祝い、迎え入れました。一方、人々は仮装して、食べ物をもたらすために家から家へ行き、詩を朗読したり、歌を歌ったり、物語を語ったりしました。サウインの期間中、仮装をすることで悪霊から守られると考えられ、もし悪霊が近づいてきたら、仮装している人が仲間の霊であると思込ませることができるとされました。同様の理由から、人々はカブからランタンを作り(上の写真のように！アイルランドにはかぼちゃはありません)、それに怖い顔を刻んで、家の外に置いて悪霊をだましました。人間の家ではなく霊の家だと思込ませました。

時とともに、キリスト教の影響力によって祭りは変わりましたが、多くの古い伝統が残っています。人々は今でもトリック・オア・トリートと言って様々な家を訪れ、カブの代わりにかぼちゃでランタンを作ることがあります。

私は古代のサウイン祭りは興味深いと思います。なぜなら、それは日本のお盆祭りと多くの共通のテーマがあるからです。サウイン/ハロウィンについてどう思いますか？とにかく悪霊が怖いから来年の10月末までに大きなカブを探してみましよう！

## ～ワンポイント英会話～

### ■ As time goes by / As time went by ~ (時とともに~)

〈例〉 As time went by, the festival was transformed by the influence of Christianity...

時とともに、キリスト教の影響力によって祭りは変わりました…

### ■ In any case ~ (とにかく~)

〈例〉 In any case, evil spirits are scary so let's try to find a big turnip by the end of next October!

とにかく悪霊が怖いから来年の10月末までに大きなカブを探してみましよう！

## 「2023年版愛知生活便利帳(ポルトガル語・スペイン語版)」を改訂発行しました。

「愛知生活便利帳」は、在留手続きに関することから、労働、結婚・離婚、出産・育児、教育をはじめ日常生活に関する情報、愛知県内の相談窓口一覧などを掲載しています。日本語と外国語が併記されており、外国人の方をはじめ、関係機関の方の指差しツールとしてもご利用いただけます。

この冊子のポルトガル語・スペイン語版を9月に改訂発行しました。

各言語の冊子を、当協会のウェブサイトからダウンロードすることができます。ぜひご利用ください。

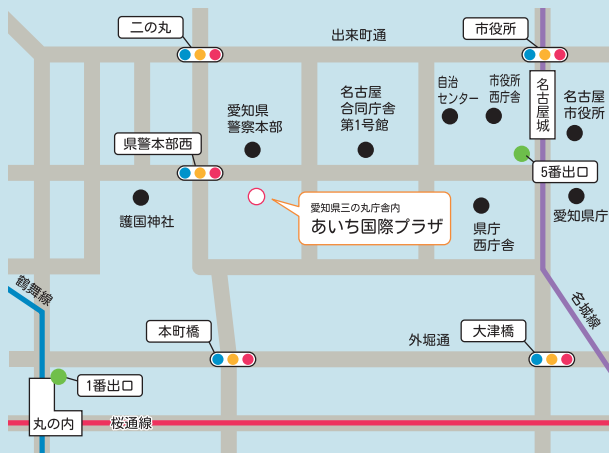
< URL > <https://www2.aia.pref.aichi.jp/sodan/j/benricho/index.html>

< 問合せ先 > (公財) 愛知県国際交流協会 交流共生課 相談担当

Tel : 052-961-7902 E-mail : [sodan@aia.pref.aichi.jp](mailto:sodan@aia.pref.aichi.jp)



### ■ 協会案内図及び交通案内



地下鉄名城線「名古屋城」駅5番出口より徒歩5分  
地下鉄鶴舞線・桜通線「丸の内」駅1番出口より徒歩10分

### ■ 編集後記

みなさん、ハロウィンは楽しめましたか。私はカナダに住んでいたときに仮装をして近所の家々を回ったことを思い出しました。ですが起源については何も知らずに、ただ楽しいイベントとして過ごしていました。いろいろな行事の起源や意味を調べ直してみると面白い発見があるかもしれませんね。(甲村)

### ■ 開館時間案内

開館時間 月曜日から土曜日 10:00 ~ 18:00  
(金曜日は10:00 ~ 20:30)

休館日 日曜日、祝日、年末年始(12/29 ~ 1/3)

### ■ 編集・発行

令和5年11月15日発行

公益財団法人愛知県国際交流協会

〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-6-1 (愛知県三の丸庁舎内)

TEL : 052-961-7903 / 052-961-8744

FAX : 052-961-8045

URL : <https://www2.aia.pref.aichi.jp/>

\*本誌を作成するにあたり、企業・個人の方に取材を通じてご協力いただいておりますが、登壇する企業・個人の営業活動の促進を目的とするものではありません。